

HOME > PROJECT > XSCHOOL >
発表目前！ 最後まで走り続ける【ワークショップ最終回・後編】

PROJECT XSCHOOL2019

発表目前！ 最後まで走り続ける【ワークショップ最終回・後編】

プロジェクトの発表が目前に迫った最終回となるワークショップ。各チームのメンタリングを進めながら、2日目にはディレクターの多田智美さんによる企画書講座も開かれました。まずは前編に引き続き、チーム紹介からお届けします。



PROJECT



XSESSIONS

2021 PROJECT
ARCHIVE

2020 PROJECT
ARCHIVE

2019 PROJECT
ARCHIVE

2018 PROJECT
ARCHIVE

2017 PROJECT
ARCHIVES

2016 PROJECT
ARCHIVES

CONTACT

プレゼンテーションに臨むXSCHOOL 4 期生チームを紹介！

チーム 4



▲左から黒田さん、笠松さん、水口さん、島田さん。全員が福井出身、東京在住のメンバー。郷土愛が強いチームです

チーム4はメンバーの黒田さんの個人的な動機からプロジェクトが立ち上がりました。黒田さんの想いとは実家の作業小屋を改装して地域に開かれたスペースをつくること。家族の介護問題に直面する中、「いろいろなハードルを取り払い、気軽に集まれるような地域コミュニティカフェをつくりたいと思うようになった」そうです。キーワードになるのは“ものづくり”との接点。訪れる人がつくる時間を共有することで、共生できる地域社会を目指します。



「この取り組みで尊重し合いながら地域の人と共生できる社会が実現できると嬉しい。プレゼンでは個人的な動機から、聴く人が共感できるビジョンをどう伝えるかが本番までの課題です」と話す黒田さん。想いに共感するメンバーとともにブラッシュアップを進めています。

チーム 5



▲左から鈴木さん、南さん、見目さん、田中さん、中神さん

チーム5は、“捨てにくいものを手放す時の選択肢を作る”をコンセプトにしました。きっかけはパートナー企業の増田喜さんの古紙回収の現場リサーチ。リサイクルされゆく書籍の価値に気づき、資源循環サイクルのなかで“手放す気持ち”によりそったプラットフォームがあってもいいのではと考えました。「“残す”と“捨てる”の間に選択肢を設けて、新しい手放しのかたちがある未来を考えていきたいです」と中神さん。



▲元DJという異色の経歴をもつ増田喜社員メンバーの見目さん（写真右）

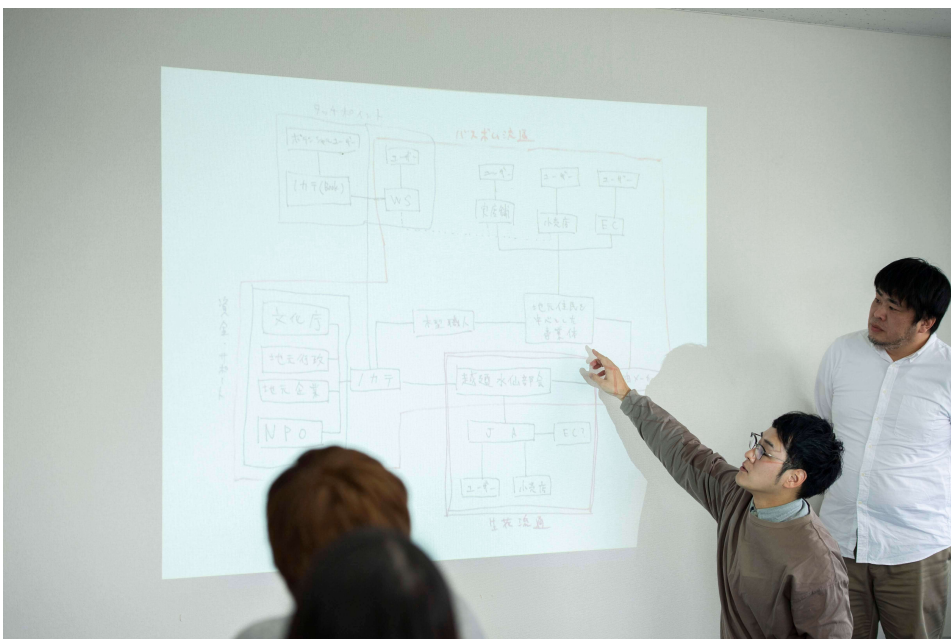
「考えた仕組みがまずは県内で利用してもらえるようにこのプロジェクトの魅力が伝わるようなストーリーも考えたい」と話す見目さん。プレゼンテーション当日は一体、どんなストーリーが語られるのでしょうか。まだまだやることが山積みと笑う5人のラストスパートに期待です！

メンターチーム



▲左から高野さん、田中さん、加藤さん、吉鶴さん、高橋さん

過去のXSCHOOL参加者や運営メンバーから構成されたメンターチームは、福井市越廼地区を中心にフィールドワークを続けてきました。越廼地区はmake.fプロジェクトの「日本海トライアルステイ」の舞台であり、地域おこし協力隊が縁で福井に移住したメンバーの高橋さんが暮らす馴染み深いエリア。そこでみつけた福井の文化的景観である水仙畑と担い手農家さんとの偶然の出会いがプロジェクトの方向性を固めていきました。



チームが提案したのは、各地の文化的景観や地域資源が担い手不足によって存続が危ぶまれている状況をふまえ、そこに持続的な営みをつくるために自分たちができるプロジェクト。

「未来の土着を考える上で、いろんなモノやコトが誰かの、何かにとって意味のある糧としてつながっていく営みが大事」と高橋さんは力を込めます。

ディレクター・アドバイザーとのメンタリングでは、プロジェクトの意義や活動の重要性を、もっとストーリーを持たせて伝えてほしい、とアドバイスがあり、自分たちが本当に伝えたい想いやストーリーを整理し、再度プレゼンの中身も確認することにしたメンターチーム。

XSCHOOLの先輩として各チームを引っ張る存在から、自分たちのプロジェクトに向け歩みを加速させたメンターチームの表情にご注目ください！

ワクワクする企画を作るために必要なことは

ワークショップの二日目には、ディレクターで編集者の多田智美さんによる「企画書講座」が開催されました。

企画書やプレゼンテーションのスライドは、どのような考え方でまとめていけば良いのでしょうか？そこには編集的な思考が大きな役割を果たします。



▲編集を、“夜空の星を結んで星座を名付ける行為”と例えた多田さん

編集の役割とは、個人や社会の背景、言語化されていない目に見えない価値をより深くつなげること、と多田さんは言います。根っこの部分にあるメッセージと背景や環境などから物語を紡ぐことで、伝えたい想いに奥行きを与えることができます。

魅力的な企画書とは「読み始めたら一気に読ませてしまうもの」、そして「その企みが頭に思い浮かんでワクワクするようなもの」。

「届ける相手は誰か」「何を伝えたいのか」「どういう立場で語りかけるのか」「どんな状況が起きたらいいのか」など伝え方の指針となる編集方法を学びました。

発表に向け、チームの企画書づくりとプレゼンテーションを後押ししようとして開かれた多田さんの臨時レクチャー。多田さんが関わった門外不出の企画書事例も披露され、メンバーは大きな刺激を受けた様子でした。

全4回のワークショップを終えて

チームの動向に伴走を続けてきたアドバイザー・ディレクターからは、この2日間も多くのレビューや発表に向けたエールが発せられました。その一部を紹介します。



「僕が皆さんに伝えたいのは、どれだけ自分の技術が不足なくとも、どれだけ時間が無くとも、自分が作ったものには最後まで責任を持つてほしいということです。皆さんが活発に議論を戦わせているのを間近で見て、僕もすごく刺激を受けました。だから最後まで諦めないで、やり切ってほしいと思います」(アドバイザー・川崎和也さん)



「チャレンジしなかったら何も変わらないままです。世界記録も挑戦するから生まれる。ようやく今日、本音でぶつかっているチームもあったので、ここからの巻き返しに期待しています。これからプロジェ

クトをブラッシュアップしていく中で、自分たちで解決できない問題にぶつかったら、まず仲間を探してください。それが発表会までの重要な仕事の一つになりますよ」(プログラムディレクター・原田祐馬さん)



「これから発表会までの一日一日がすごく大事になってくると思います。僕も昨年のXSTUDIOにローカルリーダーとして参加していた時は、発表会前日にプレゼン資料をゼロから作り直しましたし、当日他のチームが発表している最中に修正もしていました。悩みの中で、苦しんでいる今だからこそ、本当の全力が出せるんじゃないかと僕は期待しています」(坂田守史さん)

XSCHOOLのスタートしてから、ここまでの約120日間。はじめて出会ったメンバーがチームを組み、時間や距離などいろんな壁を乗り越えながら、一つのプロジェクトを作り上げてきました。何かを生み出す難しさに最後まで苦戦しながらも「未来に残るものを作りたい」、その一心で進んできたメンバーたち。その想いを2月のプレゼンテーションにぶつけて、プロジェクトのスタートへ一歩を踏み出します。ぜひ会場でお聴きください！

text:Syota Ban(fuプロダクション) photo:Kyoko Kataoka

発表会情報はこちら

東京2月2日（日）、福井2月8日（土）、プレゼンテーション開催決定！

いいね！ 0

<<< PREV NEXT >>>

Related article 関連記事



PROJECT XSCHOOL

ローカルとグローバルがつながる未来に向けて 【XSCHOOL福井プレゼンテーション後編】

「XSCHOOLプレゼンテーション福井」は後半へ。ゲストレビューアの松島倫明さん、山崎亮さんと、プログラムディレクターの原田祐馬さん、坂田守史さんが登壇し、6チームのプ…

MORE >

CONTACT



PROJECT XSCHOOL

福井に根づかせたい未来とは【XSCHOOL福井プレゼンテーション前編】

2016年からスタートしたXSCHOOLは、福井市がこれまで培ってきた歴史や文化、産業などの資源を活かしながら、ともに考え挑戦できる舞台をつくろうと、毎年プログラムを変…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

声なき声を探る120日間を経て【XSCHOOL東京プレゼンテーションレポート】

「未来の土着」をテーマに、約120間のプログラムを走らせてきたXSCHOOL。さまざまな視点から地域を見つめ、問いを投げかけてきた6チームが、ついにプロジェクトを披露す…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

発表目前！ 最後まで走り続ける【ワークショップ最終回・前編】

2019年10月から始まった福井でのワークショップも、この第4回目がいよいよ最終回。アドバイザー・ディレクターらとの最終メンタリングを控え、緊張した面持ちのメンバーが多…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

東京2月2日（日）、福井2月8日（土）、プレゼンテーション開催決定！

次代をデザインする人のための小さな教室・XSCHOOLのプレゼンテーションを東京と福井で開催します！ XSCHOOLは、福井の文化風土や産業を探索し、社会の動きを洞察し…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

アイデアを磨きプロジェクトを生み出す 【第3回ワークショップ】

XSCHOOL2019のワークショップも折り返し地点。前回までのワークショップで、メンバーたちはパートナー企業の現場を見学したり、アドバイザーのレクチャーを受けたりと、…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

未来へ介入するデザインのヒント 【第2回ワークショップ】

「未来の土着」をテーマにスタートした今期のXSCHOOL。10月の初回ワークショップでは6つのチームが結成され、パートナー企業の技術や社会課題、福井の地域性を読み解きな…

[MORE >](#)

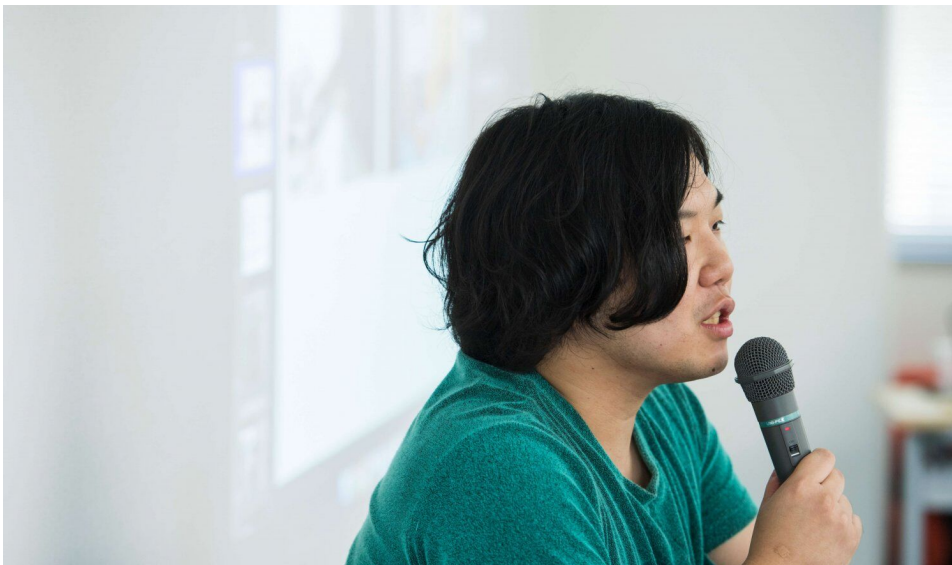


PROJECT XSCHOOL

XSCHOOL 2019がスタート！【第1回ワークショップ】

福井を舞台に新しいプロジェクトをつくり上げるXSCHOOLが、今年も始まりました。今年度はスタジオ形式の「XSTUDIO」からプログラムを再編。地元パートナー企業と、全…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

地域の土着性が未来に問いを投げかける 【XSCHOOLトレジャーハンティング・後編】

XSCHOOLトレジャーハンティング・前編では、3つのパートナー企業についてご紹介しました。リサーチ中には今期のXSCHOOLのアドバイザーでスペキュラティブ・ファッシ…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

パートナー企業をたずねて【XSCHOOLトレジャーハンティング・前編】

2016年、福井市で次代のデザイナーを育む小さな教室「XSCHOOL」がスタートし、今年で4期目を迎えました。今年度は3つのパートナー企業から各社数名の社員が参加し、各…

[MORE >](#)

[さらに読み込む](#)

CONTACT



事業名 福井とつながる対流拡大事業 主宰 福井市
協力

国立大学法人 福井大学 産学官連携本部、公立大学法人 福井県立大学 地域連携本部、株式会社福井銀行、株式会社福井新聞社

運営 株式会社福井新聞社、株式会社デザインスタジオ・ピネン

© 2025 未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト